



## 「小さな失敗」

年長組さんのあるクラスの出来事です。この三月に卒園した子供たちが卒園記念に残してくれた、自然木から出来た真新しい積み木を使って、クラスのミニアトリエで3,4人の子供たちが何やら遊びに夢中になっています。その傍ら、一人の女の子ががっくりした様子で、ミニアトリエの隅に腰を落として座り込んでいる様子が見えました。口を開けて、目はうつろ。どうしたのかと眺めていると、遠いところを見たまま、身動きしません。何があったのか気になり、私はそばによって話を聞いてみる事にしました。

私「どないしたん。」 女の子「・・・・・・・・」

私「なんかあったん。」 女の子「・・・・あんな、うまいこと作られへんねん。」

私「えー、そうなん。この積み木で、うまいことでけへんかったんや・・・・」 女の子「・・・・」

私「そら、残念やったねえ。でも、うまいことでけへんかっても、全然かまへんから。もういっぺん、いろいろやってごらんよ。」 女の子「・・・・・・・・」

よほど、うまく積んだり、組み立てが思うようにいかなかったのでしょうか。彼女のイメージのレベルが高すぎたのか、自然木の積み木の扱いに慣れていなかったのか、彼女なりの挫折感があったのでしょうか。

ところが、話を聞いているうちに、横にいた子供が、「なあなあ、おいでや。これな、こないしたらおもしろいで。ほらほら。おいで、おいで。」と声をかけてくれました。すると、少し気を取り直したのか、声をかけてくれた子供の傍に行き、開いた口に小指をかけたままではありましたが、積み木に夢中になっている子供達の様子を見るようになりました。私は、これで少しは安心だなと思って、その場を離れました。

翌日、同じミニアトリエを見に行くと、なんとまあ、前日の挫折に打ちひしがれていたような女の子の姿が嘘のように、他の子供たちと喜々として積み木遊びに興じているではありませんか!!

思うように自然木積み木で遊べなかったという小さな失敗があって、一時、ウジウジした気持ちになってしまいましたが、失敗を聞いてくれた大人がいて、また新しい遊び方を提案し、誘ってくれた遊びの仲間がしっかり傍にいてくれて、後ろ向きの気持ちがちゃんと前向きになったのかなと思います。何気ないことですが、実はこういう経験が大きいのです。

幼児とはいえ、どんな子でもこんな小さな失敗を乗り越える力を持っています。大人からいうと小さな、小さな失敗の経験ではありますが、それをいっぱい遊びの中で体験するからこそ、子供は「学ぶ」ことができるんです。こういう失敗や挫折を乗り越える力を「レジリエンス(折れない心)」と呼び、今、この時代に育てたい力の一つと言えます。知識や技術以上に、しなやかに困難や問題、危機を乗り越えていくこういう力は、幼児期からの遊びや活動の中での小さな失敗の経験の中からこそ育っていきます。

間違えないように、失敗しないように、大人が先回りして障害を全部取り除いてしまう様なことはないでしょうか。何かをやろうとして失敗したことを執拗に非難したり、咎めたりすることはないでしょうか。「失敗体験こそ、心の免疫」大人も子供も必要なことですね。

